

周

周は、**用**と**口**との会意字です。用は、**用**で、牧場に張りめぐらした柵の象形で、“はりめぐらす”のが本義の字だということは、「甬」の所でお話しました。

周は、“口をめぐる”ということで、“言葉を十分に尽して説明する”のが本義の字です。転じて、広く“物事のゆきとどく”意味に使われます。用意**周到**。また、単に用の本義“めぐる”の意味にも使われます。周期、**周**囲、**周**遊、**円周**。音はシュウ。

週は、**周**と**辵**との会意形声字で、“まわりをまわる”のが本義の字です。今では、もっぱら七曜の一まわりする意味に使われています。週間、週刊誌、毎週。

稠は、ゆきとどく意味の**周**と**禾**との会意形声字で、“稲の豊かにみる”ことを表わした字です。音は**周**がなまって**チュウ**。転じて広く“物事の多い”意味に使われます。人口**稠密**。

調は、ゆきとどく意味の**周**と**言**との会意形声字です。音は**周**が**変**

化して**チョウ**。**言葉**がよくゆき届いて、そのため物事が“よくととのう”という意味の字です。調和、調節。

彫は、“かざり”“美しい”という意味の部首の**彫**と**周**との会意形声字です。音は**調**。玉を削り磨いてよく**調**えることを「**彫**」と言います。仕上がってこれに“かざり”をつけるのが**彫**です。今は「彫刻」など、“ほる”“きざむ”という意味に使われます。

凋は、あまねく行きわたる意味の**周**と氷の意味の**冫**との会意形声字です。音は**周**。寒さがあまねくいきわたり、どこも氷でとざされる頃になると、草木は“しぼみ”ます。凋落(草木の葉がしぼみ落ちること、転じて人の落ちぶれること)。

蝮は、鳴き声のよくいきわたる“せみ”のことです。